国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau

平成２９年４月２１日（金）
荒川水系渇水調整協議会
（事務局：関東地方整備局）

記　者　発　表　資　料

平　成　２９　年　度
第１回荒川水系渇水調整協議会
（春季定例会）の開催結果について

１．開催状況

日時：平成２９年４月２０日（木）　９：３０～

場所：さいたま新都心合同庁舎２号館１４階　災害対策本部室

協議会構成：国土交通省関東地方整備局、農林水産省関東農政局、
東京都、埼玉県、独立行政法人水資源機構

協議会の目的：荒川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。

２．開催結果

別紙のとおり

発　表　記　者　ク　ラ　ブ
埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、 東京都庁記者クラブ、水資源記者クラブ

問　い　合　わ　せ　先	
国土交通省 関東地方整備局　河川部 水政課 水政調整官　太田（おおた）　浩徳（ひろのり）（内線）３５１５ 水政課長　石田（いしだ）　武史（たけし）（内線）３５５１ 課長補佐　山本（やまもと）　典（のり）（内線）３５５７ 河川環境課 河川環境課長　影山（かげやま）　希世（きよ）（内線）３６５１ 建設専門官　延常（のぶつね）　浩次（こうじ）（内線）３６５２	住所　〒３３０－９７２４ 埼玉県さいたま市中央区新都心２－１ さいたま新都心合同庁舎２号館 電話　（代　表）　０４８－６０１－３１５１

別紙

現状と今後の対応

（１）現状

・降水量（秋ヶ瀬地点上流域平均）の状況

１月の降水量は２４㎜（平均値に対する割合６７％）

２月の降水量は１０㎜（平均値に対する割合２４％）

３月の降水量は７３㎜（平均値に対する割合１０７％）

４月１８日までの累加降水量は６３㎜（４月の累加降水量の平均値は９６㎜）

・荒川上流４ダムの貯水状況（４月１９日０時現在）

１～２月の少雨により、ダム群からの補給を行っており、貯水量は同時期の平均貯水量を下回っています。

貯水量８，１１６万㎥、貯水率５６％、平均値に対する割合８３％

（２）今後の見通し

・気象庁発表の気象情報（１ヶ月予報；４月１５日から５月１４日までの天候見通し）によると、向こう１ヶ月の降水量は「平年並」または「多い」となっています。

・荒川４ダムの貯水量は同時期の平均貯水量を下回っており、今後は水需要の多い時期となることから、降雨状況によっては、ダムの貯水量が不足することも考えられます。

（３）今後の対応

・荒川上流域の降雨状況、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

・上流ダム群の貯水量の状況や降水量の状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

・荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的な対応を行っていきます。

資　料

平成２９年度第１回荒川水系渇水調整協議会（春季定例会）資料

荒川ダム群等の現状と今後の見通しについて

滝沢ダム（平成２９年４月１７日撮影）

平成２９年４月２０日

関 東 地 方 整 備 局

１．荒川上流４ダム等の現状

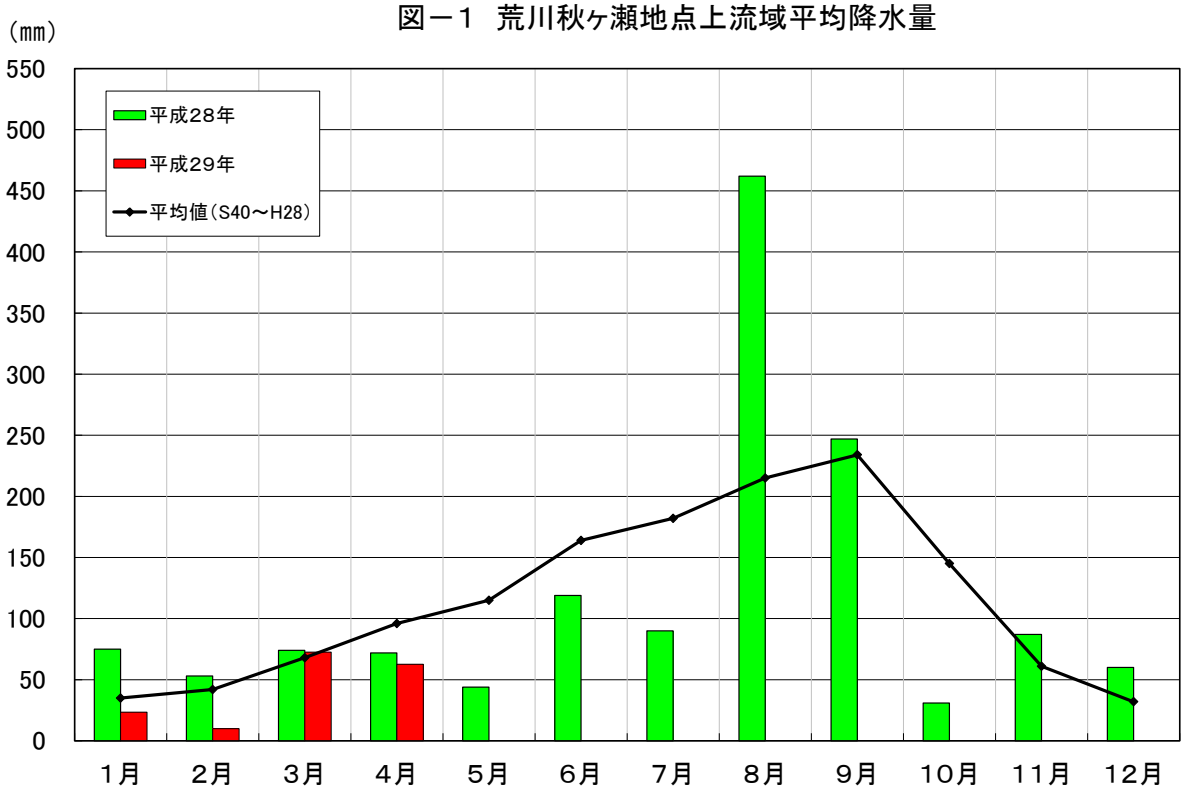
（１）秋ヶ瀬地点上流平均降水量の状況（平成２９年４月１８日までの降水量）

平成２８年４月以降の秋ヶ瀬地点上流域平均降水量は、４月、５月、６月、７月及び１０月が平均値を下回りました。なかでも、５月の降水量は４４mm（平均値（昭和４０年～平成２７年）に対する割合は３８％）であり、昭和４０年以降の５２年間で２番目に少ない値となりました。また、７月の降水量は９０mm（平均値（昭和４０年～平成２７年）に対する割合は４９％）であり、昭和４０年以降の５２年間で４番目に少ない値となりました。

平成２９年に入り、１月、２月は平均値を下回り、３月は平均値を上回りました。

４月の降水量は、１８日までの累加で６３mm となっています。（４月の降水量の平均値は９６mm）　（図－１、表－１参照）

図－１　荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量



表－１　荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（平成２９年４月１８日まで）

単位(mm)	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合　計	摘　　要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川･荒川夏渇水
平成２年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川･荒川夏渇水
平成４年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水
平成５年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成６年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川･荒川夏渇水
平成７年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成８年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川･荒川冬夏渇水
平成９年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川･荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏渇水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	利根川夏渇水
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414	
平均値(S40-H28)	35	42	68	96	115	164	182	215	234	145	61	32	1,389	
平成29年	24	10	73	63									169	
平均値に対する割合(%)	67	24	107	65									12	

※.　荒川取水制限実施月（一時緩和含む）

※.　秋ヶ瀬上流域面積　2,021 km²

（２）荒川上流４ダムの貯水状況等（平成２９年４月１９日０時現在）

平成２８年の荒川上流４ダムは、５月中旬より都市用水や農業用水の需要を確保するために、ダムに貯留した水を補給しました。その結果、８月１７日には貯水量が４，３７１万m3まで低下しました。

少雨の影響により荒川上流４ダムの貯水量が大幅に低下したことから、荒川上流４ダム完成後で初めての取水制限に向けて本協議会の担当者の打ち合わせを行い、対応について協議しておりましたが、台風等の降雨により貯水量が回復したことから取水制限は免れました。

平成２９年４月１９日０時の貯水量は８，１１６万m³、貯水率５６％（貯水量の平均値（平成２２年～平成２８年）に対する割合は８３％）です。

（表－２、図－２参照）

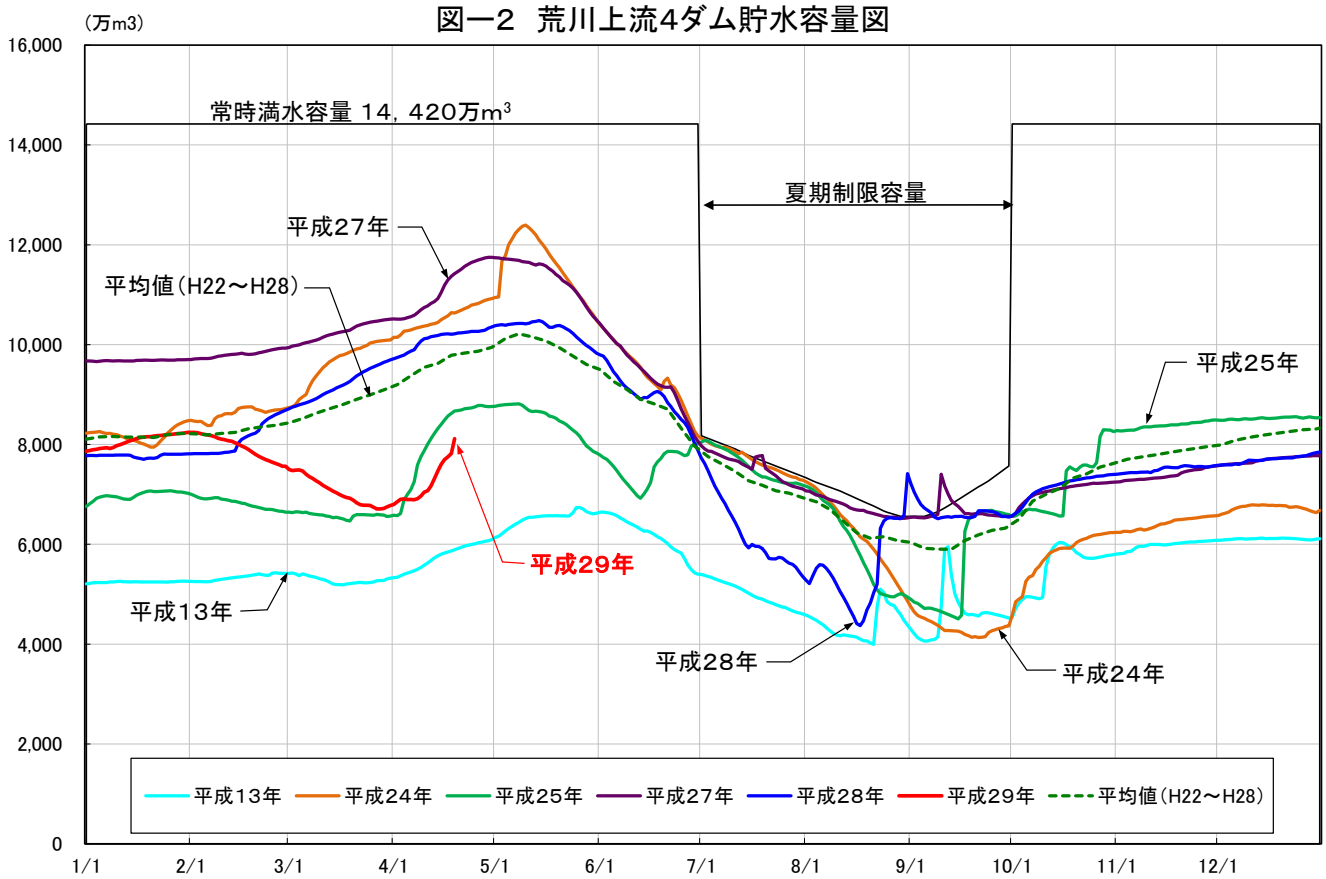
表－２　荒川上流４ダム貯水量

平成２９年４月１９日０時現在

ダム名	有効容量（万m³）	貯水量（万m³）	貯水率（%）	前日補給量（万m³/日）
二瀬ダム	２，０００	１，２７７	６４	－１６８
滝沢ダム	５，８００	２，６９７	４７	－７３
浦山ダム	５，６００	３，２０１	５７	－９
荒川貯水池	１，０２０	９４１	９２	－５０
４ダム合計	１４，４２０	８，１１６	５６	－３００
４ダム合計の平均値（平成22年～平成28年）		９，７９２	（平均値に対する割合８３％）	

１．有効容量は、常時満水容量。
２．貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
３．前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）

図―2　荒川上流4ダム貯水容量図



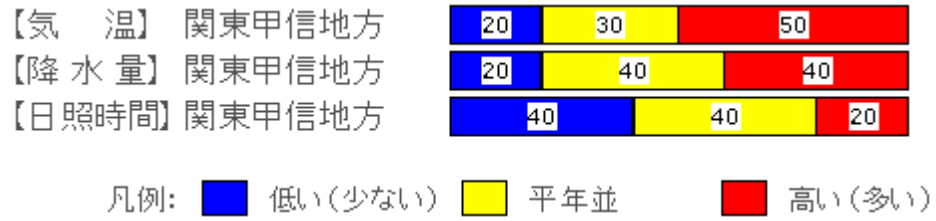
２．今後の見通し

（１）見通し

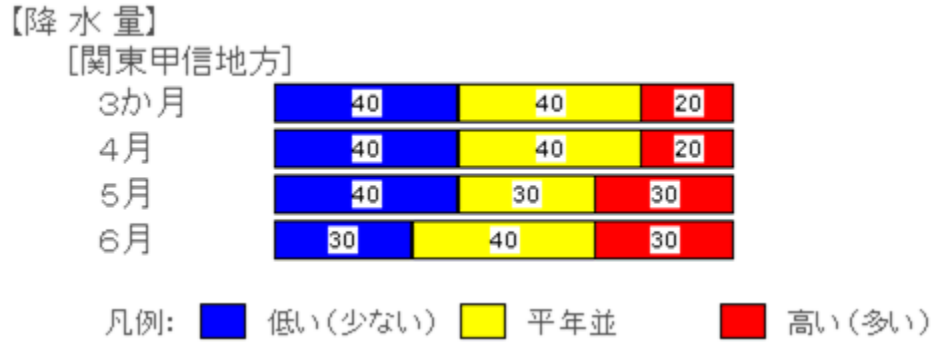
平成２９年４月１３日気象庁発表の関東甲信地方の１か月予報（４月１５日から５月１４日までの天候見通し）によると、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少なく、向こう１ヶ月の降水量は「平年並み」または「多い」確率４０％となっています。また、３月２４日気象庁発表の３か月予報（４月から６月までの天候見通し）によると、４月の天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は「平年並」または「少ない」確率ともに４０％となっています。５月の天気は数日の周期で変わり、降水量は「少ない」確率が４０％となっており、６月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、降水量は「平年並」の確率が４０％となっています。

なお、２月２４日気象庁発表の暖候期予報（６月から８月までの天候の見通し）によると、６月から７月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、その後は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は「平年並」」の確率が４０％となっています。

１か月予報（平成２９年４月１３日発表）

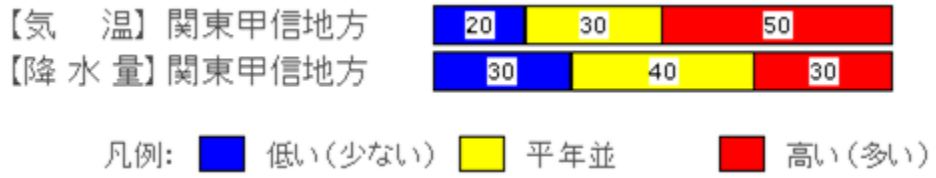


３か月予報（平成２９年３月２４日発表）



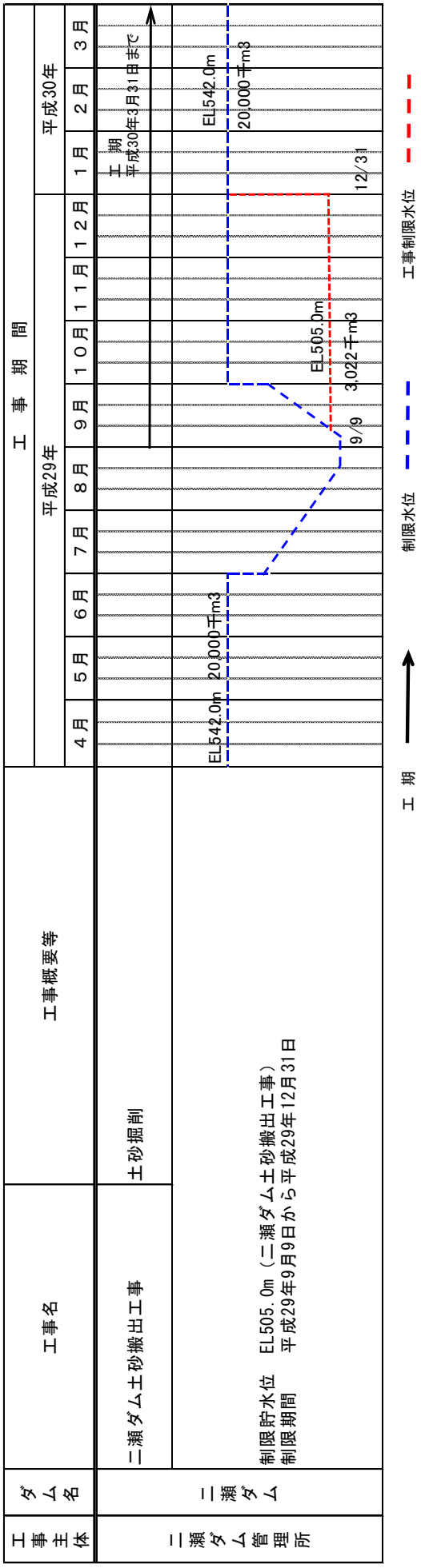
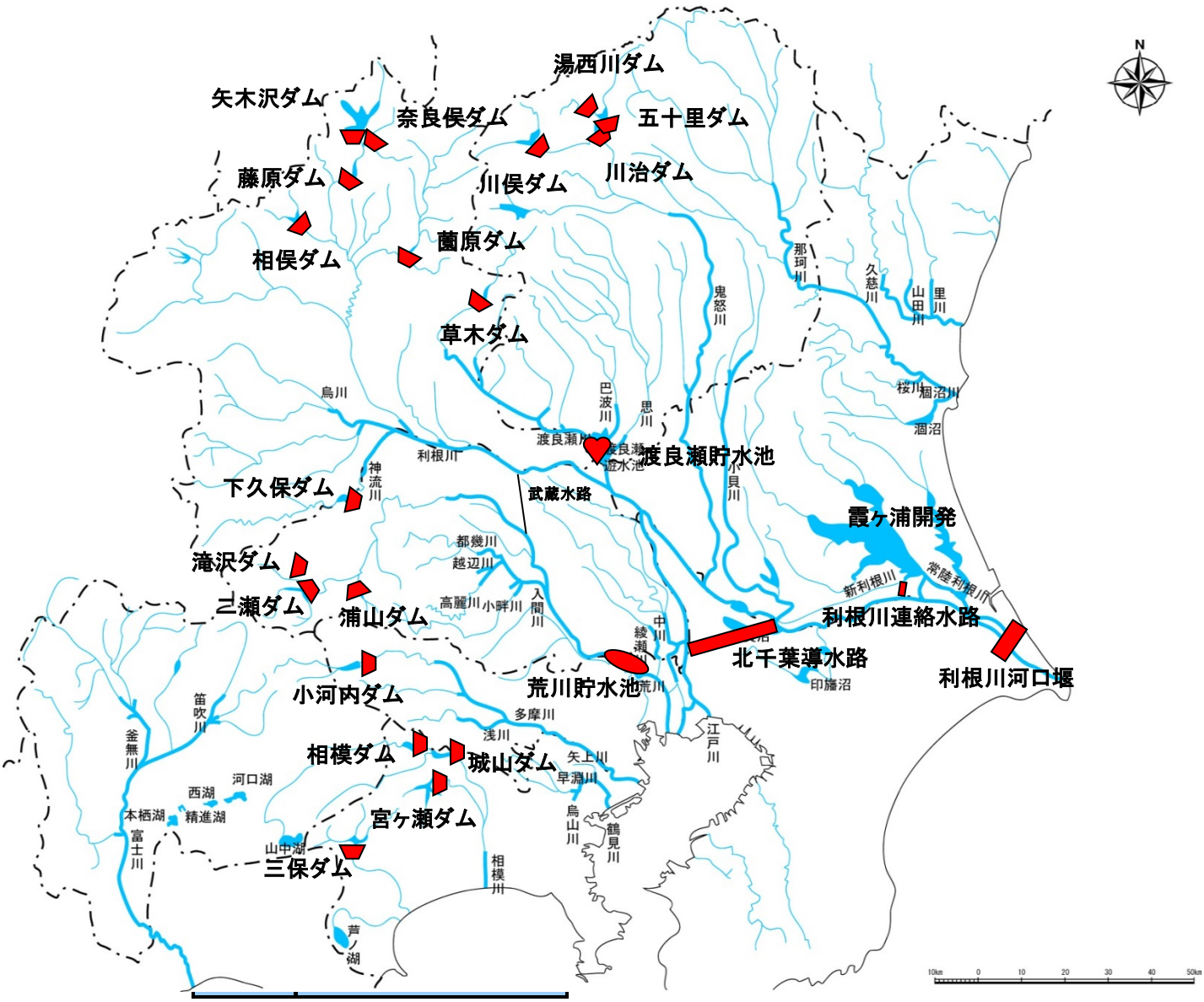
暖候期予報（平成２９年２月２４日発表）

〈夏（６月～８月）の気温、降水量の各階級の確率（%）〉



：

３．工事制限水位等について（予定）



関東地方の主要な河川と水資源開発施設